

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (伊那市教育委員会)

1. テーマ

読み書きの学びにくさを持つ児童が、基礎的な読み書き能力を楽しく効果的に習得できるための、通常学級での支援的指導や、校内での小集団による補足的指導の在り方を研究する。

2. 問題意識・提案背景

伊那市では子供一人ひとりにあわせた教育の実現をめざして、0歳から18歳までの教育・発達相談に応じる子ども相談室を設置し、発達障害及びその可能性のある児童への支援をおこなっている。2次的な問題をもつ児童の中に、低学年の漢字が書けない、音読ができない等の基礎的な読み書き能力習得につまずきをもつことから学力不振につながっている児童がいる現状があり、平成24年から早期発見・支援の方法を検討してきた。

平成26年からは本事業を受託し、市内1校をモデル校に多層指導モデルMIMの導入、スクリーニング検査によるつまずきの把握と小集団の補習指導に取り組むことで教職員の意識の変容、子供の意欲の向上等効果を得ることができた。

今回は、その取り組みを市内全小学校低学年に広げていくとともに、漢字の読み書きについても、通常学級の一斉授業で多層指導モデルMIMのような役割を果たす指導方法を研究し、さらなる充実をはかる。

3. 指定校について

指定校名：全小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	588	24	573	25	630	26	628	24	648	26	656	25
特別支援学級	33	39	33	39	40	39	27	39	39	39	38	39
通級による指導 (対象者数)	7	0	11	0	11	0	11	0	13	0	8	0
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	15	15	193	16	47	1	17	20	1	86	411	

4. 指定校における取組概要

(1) 目的・目標
 通常の学級に在籍する「基礎的な読み書きの習得に関して特別なニーズのある児童」に、教育委員会と連携し、一斉指導における指導方法の工夫や、一人一人

の教育的ニーズにあわせた補充指導を行う。

(2) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

ア. 多層指導モデルMIMを取り入れた1年生については、付属の評価方法を用いて配慮を要する児童を把握（頻度は学校ごと異なる）

イ. 3年生については、教育委員会によるスクリーニング検査を実施し、配慮を要する児童を把握（6月）

(3) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容

ア. 授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容

（ア）多層指導モデルMIMに基づいた動作化や視覚化による指導（1年生）

（イ）部首、部品などの漢字の構成を意識した指導方法である道村式漢字指導や、はじめのいっぽ漢字のじかん（学研）に基づいた指導

（重点指定校1～6年生）

イ. 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容

（ア）多層指導モデルMIMにおいて、つまずきの程度が強い3rdステージと考えられる児童への補充的指導を、発達障害支援アドバイザー2名による指導計画に基づき、数名の放課後グループ指導として実施（2校で実施 それぞれ週1～2回）

（イ）スクリーニング検査でつまずきがあると判断された3年生に対し、発達障害支援アドバイザー2名による指導計画に基づき、数名の放課後グループとして実施（1校で実施 週1回）

(4) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

ア. 多層指導モデルMIMに付属しているMIM-PMの利用（1年生）

イ. 教職員へのききとり調査（1年生、3年生、重点指定校）

ウ. 既習漢字の書き取りテスト（重点指定校）

エ. 児童・保護者へのアンケート（重点指定校）

オ. 読書力検査（重点指定校）

5. 主な成果

(1) 教育委員会が①指導教材を整備、②研修会を開催、③先行的に取り組んでいる学校の情報発信を行うことで、ひらがなの習得時期に多層指導モデルMIMを用いた一斉授業を全小学校1年生で実施することができた。

(2) 多層指導モデルMIMにおいて、①伸びが十分ではない児童への通常学級での補足的指導（セカンドステージ）、②つまずきのみられた児童への個別の指導（サードステージ）を15校中4校で実施することができた。全小学校でとはいかなかったが、指導を行った学校は効果を感じており、次年度以降読み書き支援をリードする学校となることが期待できる。

(3) 同様に、つまずきがみられる3年生への補充指導を1校で実施することができた。

(4) 漢字の指導に関して、道村式漢字指導が漢字の習得に効果的であることがわかった。当該学年の漢字指導で、平均習得率が特に3年生、6年生で90%以上と高く、児童へのアンケートでも漢字学習が楽しくない、得意ではな

い、好きではないと感じている児童が少ないという結果が得られた。

6. 今後の課題と対応

- (1) 多層指導モデル MIM の取り組み実施状況については、各小学校でばらつきがあり、視覚化や動作化を部分的に用いるという段階に留まっている学校もある。引き続き、教育委員会が研修会の開催、情報発信 MIM 活用ガイドラインの作成、重点指定校との交流を行い、全ての学校で同じレベルの指導が実施されることを目指す。
- (2) 小集団での個別的な補充指導は、実施した学校では成果がみられるものの、「人的・時間的な余裕がない、教材が準備できない」等の理由から、必要性は理解しても実施することができないという学校が大半である。組織的な体制を作れていないためと考えるが、このような状況が続くようであれば、別の方法を提案しなくてはいけない可能性がある。次年度以降も事業の運営協議会を設置し、検討を行う。
- (3) 漢字指導について、道村式漢字指導に代表される部首や、部品などの漢字の構成要素を意識した指導方法が効果をあげることがわかったが、従来の指導方法を大幅に変更する必要があるため、一気に拡げていくことは難しいと思われる。漢字の指導方法の一つとして、研修会で情報を発信していく。

7. 問い合わせ先

組織名：伊那市教育委員会

- (1) 担当部署 学校教育課子ども相談係
- (2) 所在地 長野県伊那市山寺 1499-7
- (3) 電話番号 0265 (72) 0999
- (4) FAX 番号 0265 (72) 3666
- (5) メールアドレス ikodomo@inacity.jp